広報ふっさ
市の花・つつじ
平成26年4月15日
No. 901

人口と世帯数
(平成26年4月1日現在)

人口	男	29, 460
	女	29, 216
	計	58, 676
世帯数		29, 190

まちの写真ニュース
今年の桜まつりも多くの人々で賑わいました！ 来年もお楽しみに！

今号の主な記事
2面市職員募集　3面平成26年度予算概要　4面平成26・27年度後期高齢者医療保険料の改定　5面高次脳機能障害専門相談
6面市内体育館子どもの日無料開放のお知らせ　7面子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果報告書の公表　8面保健ガイド

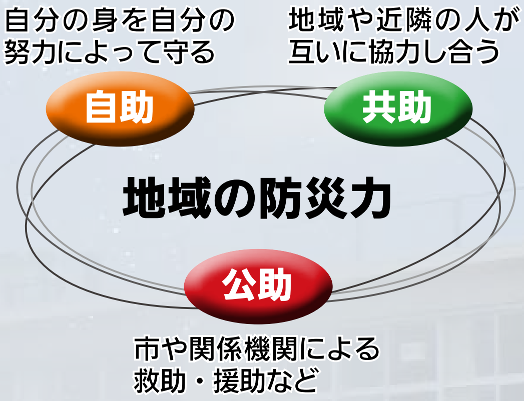
地域の防災力を高めましょう！

災害は、いつ、どこで起こるか分かりませんが、日ごろの備えによって、被害を予防・軽減することはできます。

市では、東日本大震災等、過去の災害の教訓を反映し、東京都地域防災計画や首都直下地震等の被害想定に合わせ、平成25年12月に「福生市地域防災計画」を修正しました。この計画では、「自助・共助・公助を束ねた地震に強いまちづくり」・「市民の命を守る危機管理の体制づくり」・「被災者の生活を支え、福生市を早期に再生する仕組みづくり」の3つの視点から、市民、事業所、行政のそれぞれの役割に応じた取り組みを進め、災害・非常時に即応できる地域防災体制の充実を図り、推進することを基本目標としています。

大規模災害が発生した場合、行政のみで災害対応を行うことには限界があります。災害発生直後の対応として、市民や事業所の皆さんによる地域での日ごろからの取り組み、協力が重要です。それぞれが主体的に自助・共助・公助による取り組みを推進し、災害に強いまちづくりを進めていきましょう。

【問合せ】安全安心まちづくり課防災係☎551・1638



①自助～自分と家族を守る～

・非常持ち出し品、非常用備蓄品を準備

いざというとき、避難時にすぐ取り出せる非常持ち出し品を準備しておきましょう。また、災害復旧までの数日間を自活できるよう、おおよそ3日分の食料、飲料水、生活用品を備蓄しておきましょう。

・避難する場所、手順などを確認し、家族で話し合う

災害発生直後に一時的に避難する「一時避難場所」や、自宅が壊れて住めなくなったときに生活するための「避難所」の場所を、防災マップなどで確認しておきましょう。そのほか、家族や地域で避難する前の集合場所を事前に決めておくのも良いでしょう。

②共助～地域で助け合う～

・自主防災組織で行われる訓練等に参加

自主防災組織とは、市内34の町会・自治会を単位として地域を分け、町会・自治会を中心に、地域住民全員が自主的に防災活動に取り組むための組織で、防災や初期消火の訓練を実施しています。こうした訓練に普段から積極的に参加しましょう。

・隣近所で助け合う

日ごろから、近所の人や高齢者の方への声掛けなどを心掛け、いざというときに助け合えるよう、地域のつながりを高めておきましょう。

③公助～災害に強いまちづくりに向けて～

・防災マップを配布しています

災害に対する日ごろの準備や、市内の避難場所、洪水による浸水想定区域、土砂災害警戒区域などを地図上に記載した「福生市防災マップ／多摩川洪水・内水ハザードマップ」を作成し、全世帯に配布しています。

災害に対する普段からの備えとして、ご活用ください。

新しくなった防災マップ

・防災情報をメールで配信

「ふっさ情報メール」では、携帯電話やパソコンのメール機能を活用し、防犯・防災情報をはじめ生活に役立つ情報を市から配信しています。登録は右のQRコード、または fmail@req.jpに直接空メールを送信してください（登録は無料ですが、メール受信の通信費用は利用者の負担となります）。

ふっさ情報メールQRコード

【登録に関する問合せ】秘書広報課広報広聴係☎551・1529

・防災行政無線が聞き取れないとき

「防災行政無線音声確認ダイヤル」は、防災行政無線の放送内容を電話で確認できます。※ただし、放送後24時間経過したもの、定期的に放送している内容は確認できません。

▼防災行政無線音声確認ダイヤル☎539・2061／2062